

平成31年3月1日



秦野市議会議長 阿蘇 佳一 様

平成30年度議会報告会検討会

座長 八尋 伸 二



第6回議会報告会について（報告）

平成30年度議会報告会検討会では、第6回議会報告会の実施結果について、別添のとおり取りまとめましたので、御報告します。

なお、本検討会において、改選後については本検討会を常設とし、議会報告会を原則年1回の開催とすること及び開催後の対応として、より各議員の議会活動に活用できるような体制を整備すること、並びに必要な措置をとることなどについて検討すべきという意見がありました。

また、本報告書については、執行部に対しても参考送付していただくよう申し添えます。

1 実施結果について

別紙「秦野市議会第6回議会報告会報告書」のとおり

秦野市議会 第6回議会報告会 報告書

平成31年2月

秦野市議会 平成30年度議会報告会検討会

議会報告会 報告書

秦野市議会議長 阿蘇 佳一 様

(総務) 常任委員会委員長 今井 実

開催日時	平成 30年 11月 18日 (日) 15:00~16:30
開催場所	秦野市役所 議会第1会議室
出席委員	委員氏名(役割) 阿蘇佳一(議長挨拶) 今井 実(委員長挨拶)、露木順三(司会)、八尋伸二(記録) 谷 和雄(説明)、相原 學(説明)、山下博己、高橋文雄、諸星 光
参加者数	消防団長 門倉敏夫ほか11人
主な流れ	1. 開会 2. 議長あいさつ 3. 委員長あいさつ・趣旨説明 4. 総務常任委員会委員紹介 5. 参加者紹介 6. 議会報告 (1) 議会の仕組み・議会報告会の意義について (2) 平成29年度決算の審査概要について 7. 意見交換 8. その他 9. 閉会
内容 (話し合われた課題や意見、所感等)	【所感】 消防団の課題として出されて中で一番多かった内容は「消防団が市民や職場の理解を得ることができていない。」ということでした。 議会としましては、市民への周知(PR)として、市ホームページの見やすい場所に消防団の活動内容を掲載できると良いのではないかとの意見が出されました。また、地域の要請による活動や消防団フェスティバルでの負担もあるとの意見も出されました。 出された内容を一度に解決することはできませんが、少しずつ解決に向けて進められるように、サポートしていきたいと思えます。 また、市の消防活動を応援することを目的に設立された消防議員連盟でも、サポートができるようにしていきたいと考えます。 <u>※意見交換内容につきましては、別紙をご参照下さい。</u>

【別紙1】

平成30年11月18日
 総務常任委員会 委員長 今井 実

消防団への事前アンケート内容と回答

1. 行政に求めること

項番	項目	内容	行政ならびに常任委員会からの回答
1	市民・職場などへの周知について	ホームページなどで消防団活動をもっとアピールして欲しい。	現在、消防団独自のサイトではありませんが、秦野市消防本部HP内に「消防団」のページを作成して運営しています。主な内容は、消防団の紹介、サポート制度の紹介と登録店名簿(消防団サポートショップ)、入団案内、消防団のニュース等を掲載しています。 消防団の情報を探すのが大変な場所に掲載されている。
2		なぜ、消防団があるのか？ なぜ、消防団が必要なのか？ もっと市民に理解してもらえる様に、一緒に考えてもらいたい。	東日本大地震以降、地域防災力の必要性がさらに求められ、有事の際に最も近くで頼れる組織であると考えています。市民への周知については、広報紙への掲載や消防団フェスティバル、消防出初式等でアピールしています。 また、今年度は、高校生の入団もあった事から、若年層への入団促進について検討していきたいと思えます。
3		勤務先への消防団活動の理解を求めて欲しい。 (土日の活動が多く、土日が休みの人は休みがとりにくく活動に参加できない。)	以前から、新入団員、希望する団員には、消防長・団長名で勤務先へ消防団活動に理解をいただくようお願い文章を出しています。 また、平成31年度から、この文書に日頃の団活動に対するお礼も含めて、市長名で、全団員へ配布し、団員の方から職場に提出していただく予定となっています。
4	装備などについて	消防団の装備について、随時、新たなものに更新してもらいたい。	個人装備としては、防火衣、保安帽、ゴーグル、安全帯を分団部ごとに計画的に配備し、活動服、編上靴(へんじょうか)、皮手袋、アポロキャップは個人に貸与しています。順次平等に配布している。 また、東日本大震災を契機として平成28年度から、投光発電機、エンジンカッターを各分団部に、背負い式消火水のうを各分団本部に計画的に配備しています。 なお、防火水槽の設置、管理については、常備消防の警防対策課が担当しており、消防団事業には含まれません。
5		最低限必要な物の支給は行政でまかなってもらいたい。 必要な物も消防団に聞いてもらい	資機材や個人装備品については、計画的に配備をしている状況です。分団部ごとに差異を生じさせないためにも、一律に同じ物を配備していますが、不足物品については、分団部ごとに交付している運営交付金で購入していただいています。

		たい。	要望等の機会は特に設けていませんが、運営交付金で賄えない資機材等があれば、消防本部へ相談いただきたいと思います。
6	団員確保について	消防団員勧誘、確保の活動を行って欲しい。	現在、行政が実施している勧誘活動としては、「秦野市消防本部のホームページ上での団員募集」、「公共機関や事業所等へのポスターの掲示、ちらしの配布」、また、消防団フェスティバルを開催し市民に消防活動を理解していただくとともに、防災訓練、市民の日など、多くの市民が集まるイベント等で消防団ブースを設け、入団促進PRをしています。 さらに学生消防団員の就職時に団活動の証明書を発行する「学生消防団活動認証制度」、消防団員の福利厚生のため、加盟店を募り特典等を付与していただく「消防団サポート制度（サポートショップ）」を普及することでも、入団促進に努めています。また、自治会から推薦や、消防団員自ら知人の方に声をかけていただいたりもしています。
7		新入団員確保について、情報提供等、行政や自治会にもう少し協力してほしい。団員での勧誘には限界がある。	
8	組織について	女性団員のみでの部隊をつくり、団員の不足を解消する企画を作成する。	女性団員のみでの部隊をつくることは、行政(消防本部)側で決める内容ではないと考えています。消防団組織内での企画や検討されましたら、消防本部にて支援させていただきます。
9		大根、鶴巻地区の世帯数は21,000世帯で、他の地区よりも多く、消防団を1部増やすことができないのか。	【別紙2】
10	運営資金について	運営資金が分団部によりかなりの格差があるようです。 可能な限り平均的な取り組みを希望します。 (行政の出来ることかは分かりませんが)	消防団活動の運営費については、「秦野市消防団運営交付金等に関する交付要綱」に基づき、各分団部へ均等に支出されています。交付金額はそれぞれ下記の金額が規定されており、交付されています。 ・団本部（1部） 166,000円 ・分団本部（7部） 196,500円 ・分団部（29部） 115,500円 但し、「自治会協力費(地域で呼び名が異なる)」が、地域で金額が異なることから、全体の収入に差が生じることがあります。この費用は、地域(各自治会)での扱いとなり、行政(消防本部)としては是正し均等化することは、現状では困難です。

【当日の補足ご意見・ご要望】

項番	項目	内容	議会からの回答ならびにコメント
1	消防団のホームページ掲載について	消防団の情報は、市ホームページの見にくい場所にある。トップなど見える場所に掲載して欲しい。	見やすく周知できる場所となるよう、行政へ検討を要請する。
2		小田原市のホームページのトップページには「消防」というカテゴリーが表示されている	
3	訓練場所について	第4分団では、県の操法大会の訓練を行った際、地元には直線60m～70m(アスファルト)で訓練ができる場所がない。場所の確保をして欲しい。 安い土地で良いので、場所を確保し、訓練場所を	安い土地とは言っても直ぐに購入・対応できることではありませんので、今後、検討をしてもらえるように、要望として行政へ伝えます。
4	組織体制について	第5分団の対応範囲が非常に広い。 地域防災の中核となることが求められている。 回答では、消防団でどのように考えているかだということですが、条例等で決められているので、消防団は、その範囲内でしか検討できない。この改題は、消防団のみで考えるのではなく、議会を含め市全体で検討して欲しい。	鶴巻温泉付近では、水害も多く出動機会が多い、この課題は重要なことですので、議会の中でも十分に議論して、執行部へ要望をしたいと思います。

2. 消防団活動での課題

項番	項目	内容	行政ならびに常任委員会からの回答
1	負担について	ボランティアの範疇を超えた活動が増え、負担が大きくなっている。	特に行政から回答する内容はないが、市側としては、ここ数年、研修、訓練、行事などは、新たに増やしてはしません。
2		消防団員に対する負担及び負荷が増大する傾向があると多数の団員さんから聞いています。 行事や訓練の軽減を求めます。	
3		職場の都合で、操法大会訓練などに参加できない団員がいる。 訓練に数名しか参加しないため、一部の団員に負担が偏ってしまう。	
4	定年について	定年を設けていないが、入団から退団まで22年は長すぎる。	行政から回答する内容ではないが、本年11月1日現在で最も勤続年数が長い方は34年です。他市の状況を調査したところ、定年制度が導入されている市町村は、近隣では座間市のみで18歳から45歳となっております。
5		勤続10年以下の人、50歳以上の人は体力的に個人差があるため、毎年、自己申告にて退団、継続か選択できるようにして欲しい。	本市についても自己申告制は実施している。 本人、または分団等を通して退団の申し出があった場合に退団手続きを取っています。
6	市民などへの周知について	大規模災害等があった時に消防団の行動及び活動が、非常に重要なことが市民にまだ理解されていないと思うので、今後、どのように周知し理解してもらうのか、上記を含め、同じ志を持った団員の確保が課題である。	「1. 項番1～3」ならびに「1. 項番6～7」と同様。
7	報酬について	現在、消防団員に支給されている年額報酬は、全国平均を満たしているが、県内の他市町村と比較すると格差がある。	【別紙3】

		入団促進ということを考えると、色々な事業を行うのも良いが、人件費についても見直しをかけるべきであると思う。	
8	交流について	消防学校研修等も良いが、各分署と団の合同訓練等の有意義なものにした方が良いのではないか。	現状は実施していません。

【当日の補足ご意見・ご要望】

項番	項目	内容	議会からの回答ならびにコメント
1	負担について	各自治会と消防団の関係もあり、色々なイベントに毎週土・日曜日に協力の依頼がある。 団の訓練と自治会の行事への協力もしなければならない。 防犯の面においても自治会からも要請があり、盆踊り以降はズーと対応している。 分団の中で輪番制として対応している。 サラリーマン率も上がり、幽霊団員もいるので、厳しい状況となっている。 消防議連は何もしていないので、課題について対応して欲しい。	老人ホームの納涼祭にもお願いしているので、大変だと思っています。 自治会の要請を行政が断ることも難しい。 もう少し、消防団に対する市民からの評価もして欲しいところです。
2	定年制について	綾瀬市も定年制があり、出来るからといっても残していない。	
3	団員不足について	消防団もお疲れ様会や反省会などを過去は実施していたが、制服で飲みに行きたくないなどの声が上がっている。 市民のチェックが非常に厳しい。	消防団がどのようなことをどのように行っているかなど、市民の方々には伝わっていない部分が多々あると考えます。ホームページなどで、消防団が何をやっているのか市民に対しPR伝え必要が、議会としてもあると考えます。

		半鐘を鳴らしただけで、「うるさい」と言われる地区もある。本当に厳しい。	
4	消防学校研修等について	消防学校の研修については、必要なことだと思います。消防団として訓練できない内容なので設備も整っていません。各担当する分署と地区で特徴のある地形など、見合った訓練や隣の分団と合同で訓練するなど、消防団としてのコミュニケーションが取れるのではないかと考えます。	各地区、分団毎に抱えている課題が異なると思います。例えば、鶴巻地区ですと水害についての課題などがあります。一律ではありませんので、各地域に沿った訓練を行うと良いのではないかと考えます。行政の方々からの回答としては、今後、基本的な訓練が熟知できたならば、災害現場を想定した合同訓練を計画していきたいと考えているそうです。

3. その他の意見・要望

項番	項目	内容	行政ならびに常任委員会からの回答
1	フェスティバルについて	消防団フェスティバルの会場を、もっと広いところ出来ないか。	平成27年度は、文化会館（カルチャーパーク第2駐車場）での開催実績もあります。開催場所、内容等については、年度ごとに編成されるフェスティバル検討委員会、検討部会をして頂いていますので、ぜひ、検討・決定をお願い致します。入団促進を目的に実施しているフェスティバルなのに、離れた駐車場の警備を団員が実施している。市民の日には、団員の皆さんが入団促進のチラシを市民の方々にお配りされているなど、内容と実施していることにズレが生じているのではないかと感じています。団員の方々にボランティアでの活動を逸脱しているのではないかと感じています。もちろん、団員が不足している中で実施されていますが、負担が多くなることは本末転倒などではないかと思えます。何か、良い手を考えた方が良いと思えます。
2		消防団フェスティバルと南地区のふれあい祭が毎年同日なので、日付を変えてほしい。	日程につきましても、フェスティバル検討委員会で提案し、検討することで実施可能と考えます。
3	他市との交流について	伊勢原市、平塚市、小田原市等の近隣市との交流をし、その市の良いと	皆様のご意見をお願い致します。

		ころ、問題点等の情報交換をする。	
4	NHK 受信料負担について	消防団車庫のNHK受信料の件も、防災拠点としてTVからの情報も必要な中、自分たちで受信料を払わないとの通告も、何か不思議な結果だと感じます。	NHKの受信料についてですが、日本放送協会の受信料免除基準では、社会福祉施設及び入所者、学校、公共扶助受給者、市町村民税非課税の障害者、視覚・聴覚・重度障害者、戦傷病者の方のみとされており、減免措置の対象となっていません。
5	市民への周知について	365日24時間、待機している私たちの秦野市に対する誠意をもっと感じて下さい。	<small>なりわい</small> 生業の傍ら、秦野市のために常に気を張り詰めている消防団員の皆様の御苦勞は痛感しております。 今後も、常備、非常備区別なく、協力して秦野市の防災のために活動していきたいと思えます。
6	行事・訓練などの改善について	職業により就業形態の違いの幅が広いと、画一的な行事や訓練は難しくなっていると思えます。 改善を求めます。	

【当日の補足ご意見・ご要望】

項番	項目	内容	議会からの回答ならびにコメント
1	フェスティバルの開催場所について	50周年記念は、文化会館で実施した。 今回も西庁舎ではなく、文化会館で実施して欲しいとの要望を出したところ、駐車場だけを貸すことは難しいとの回答があった。 また、1年前に日程を決めなければならない。 12月に調整会議が行われ、一般でも7か月前、市の行事ですとそれ以上前に抑えなければならない。	
2	他市の消防団との交流について	広域になっている。	

【別紙 2】

消防団の組織編成と管轄区域

▽ 組織 ▽

本市消防団は、「秦野市消防団の設置等に関する条例」に基づき、1 団本部 7 分団 3 6 部で構成されています。

平成 3 0 年 4 月 1 日現在

区 分	組 織 編 成			管 轄 区 域			
	定数 (人)	実数 (人)	部数 (部)	面積 (k m ²)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	地区
本 部	6	6					
第 1 分団	90	79	8	6. 20	9, 048	21, 310	本町
第 2 分団	68	65	6	8. 66	13, 002	32, 654	南
第 3 分団	57	48	5	29. 12	6, 309	15, 913	東
第 4 分団	35	33	3	19. 72	4, 891	13, 424	北
第 5 分団	46	43	4	8. 59	21, 493	41, 734	大根・鶴巻
第 6 分団	68	61	6	18. 84	15, 465	38, 246	西
第 7 分団	46	44	4	12. 48	770	2, 279	上
計	416	379	36	103. 61	70, 978	165, 560	

※ 世帯数及び人口は、平成 3 0 年 4 月 1 日現在の数値です。

※ 出典：秦野市消防本部

神奈川県内 消防団の報酬と手当など

報酬・出勤手当の条例単価調査

No.	市町村名	条例で定める報酬額(階級:団員)(単位:円)								条例で定める出勤手当額(単位:円)												
		基本団員			機能別団員・分団員			その他 (機関員手当等)		支給単位	災害時				平時				その他 (出勤時間により異なる場合、放水有無により異なる場合、研修・式典等に参加した場合等)			
		報酬額 【数値で記入】			報酬額 【数値で記入】			報酬額等			火災出動 【数値で記入】		風水害等 その他の災害 【数値で記入】		警戒 【数値で記入】		訓練 【数値で記入】					
		支給単位	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	支給単位	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在		H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在			H30.4.1 現在	H29.4.1 現在
1	横浜市	年額	34,000	34,000						回数	3,400	3,400	3,400	3,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	訓練等と同様	
2	川崎市	年額	22,000	22,000						回数	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	7,000	7,000	2時間を超えた災害等に従事	
3	相模原市	年額	35,000	35,000	年額	35,000	35,000			回数	3,000	3,000	3,000	3,000	2,500	2,500	2,500	2,500				
4	横須賀市	年額	35,000	35,000	年額	18,000	18,000	3000	3000	回数	3,000	3,000	3,000	3,000	2,500	2,500	2,500	2,500			機関員手当(年額)	
5	平塚市	年額	27,600	27,600						その他									4,600	4,600	3時間以上の災害活動。または放水有り	
5	平塚市									その他									3,100	3,100	3時間以下の災害活動	
5	平塚市									その他									3,100	3,100	3時間以上の災害以外の活動	
5	平塚市									その他									1,600	1,600	3時間以下の災害以外の活動	
6	鎌倉市	年額	31,200	31,200						回数	2,800	2,800	2,800	2,800				1,600	1,600	5,200	5,200	出勤時間(3時間以上)で変動
7	藤沢市	年額	31,300	31,300						その他	1,700	1,700	1,700	1,700	1,400	1,400	1,400	1,400			1時間ごとの金額	
8	小田原市	年額	27,200	27,200				5500	5500	回数	2,900	2,900	2,900	2,900	2,300	2,300	2,300	2,300	4,300	4,300	3時間以上の災害時出勤手当	
9	茅ヶ崎市	年額	32,000	32,000	年額	32,000	32,000	4300	4300	回数	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	3,600	3,600	それぞれ3時間を超える場合	
10	逗子市	年額	31,000	31,000				2000	2000	回数	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400			8時間以上の水、火災出動時は倍額支給	
11	三浦市	年額	37,500	37,500				4000	4000	回数	3,000	3,000	3,000	3,000	2,500	2,500	2,500	2,500				
11	三浦市							5000	5000													地区分団長(年額)
12	秦野市	年額	36,500	36,500				11500	11500	回数	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	一律
13	厚木市	年額	39,500	39,500						回数	3,400	3,400	3,400	3,400	2,700	2,700	2,700	2,700				
14	大和市	年額	41,500	41,500						回数	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	1,800	1,800				
15	伊勢原市	年額	43,000	43,000						回数	2,700	2,700	2,700	2,700	2,000	2,000	2,000	2,000				
16	海老名市	年額	41,200	41,200						回数	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	2,500	2,500	4,000	4,000		水火災(3時間以上従事)

神奈川県内 消防団の報酬と手当など

No.	市町村名	条例で定める報酬額(階級:団員)(単位:円)									条例で定める出動手当額(単位:円)											
		基本団員			機能別団員・分団員			その他 (機関員手当等)			支給単位	災害時				平時				その他 (出勤時間により異なる場合、放水有無により異なる場合、研修・式典等に参加した場合等)		
		報酬額 【数値で記入】			報酬額 【数値で記入】			報酬額等				火災出動 【数値で記入】		風水害等 その他の災害 【数値で記入】		警戒 【数値で記入】		訓練 【数値で記入】				
		支給単位	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	支給単位	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在		H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在	H30.4.1 現在	H29.4.1 現在
17	座間市	年額	89,400	89,400							回数	1,800	1,800	1,800	1,800	800	800	800	800	3,600	3,600	3時間以上の災害への対応
18	南足柄市	年額	41,200	41,200	年額	5,000	未設置				回数	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	860	860			
19	綾瀬市	年額	48,800	48,800							回数	2,000	2,000	2,000	2,000					4,000	4,000	3時間以上の災害時出動手当
20	葉山町	年額	32,000	32,000				23000	23000	技術員(機関員)手当(年額)	回数	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700	2,000	2,000	12月29日～1月3日の出動手当は、通常手当に2千円加算
21	寒川町	年額	47,700	47,700							回数	1,000	1,000	1,000	1,000	500	500	500	500			
22	大磯町	年額	33,000	33,000							その他	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	1時間ごとに570円支給(研修含)
23	二宮町	年額	33,000	33,000							回数	3,000	3,000	3,000	3,000	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	会議、研修等
24	中井町	年額	50,000	50,000							回数	700	700	700	700	700	700	700	700			
25	大井町	年額	62,000	62,000				18600	18600	運転員手当(年額)	回数	1,000	1,000	1,000	1,000	550	550	550	550	550	550	研修、会議等
26	松田町	年額	49,800	49,800							回数	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	500	500	危険手当
27	山北町	年額	47,000	47,000							回数	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	会議、研修等
28	開成町	年額	52,000	52,000							回数	2,100	2,100	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	3,150	3,150	4時間を超える災害出動
29	箱根町	年額	36,500	36,500							回数	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	会議、研修、雑踏警備等
30	真鶴町	年額	19,000	19,000							回数	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000			
31	湯河原町	年額	30,000	30,000	年額	10,000					回数	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	会議・研修等
32	愛川町	年額	64,000	64,000	年額	12,000					回数	2,100	2,100	2,100	2,100	1,400	1,400	1,400	1,400			
33	清川村	年額	45,000	45,000	年額	24,000	24,000				回数	3,000	3,000	3,000	3,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	研修

【記入上の注意】

- ◎ 市町村ごとに条例で定める報酬額及び出動手当額を記入してください。なお、【数値で記入】欄には、1つのセルに1つの「数値」のみを記入してください。
- ・報酬額は、階級が団員の場合について記入してください。また、基本団員と機能別団員・分団員の報酬額を分けて記入してください。なお、報酬を月額により支給している場合には、支給単位を「年額」とし、12倍した額を記入してください。(年額に換算する)
- ・機能別団員・分団員制度を導入していない市町村は、「機能別団員・分団員」の欄は何も記入せず「空白」としてください。(「0(ゼロ)」「-(ハイフン)」等の記入も不要)
- ・機関員手当等、同じ階級(階級:団員)の基本団員であっても年額報酬が異なる場合には、基本額となる報酬額を「基本団員」の欄に記入し、特別な場合の報酬額等を「その他」の欄に記入してください。また、その場合が分かるよう説明を付けてください。
- ・条例等で定める出動手当額は、支給単位が「回数」かそれ以外か入力すること。
- ・火災出動が1回あたりの出勤時間により異なる場合には、支給単位は「回数」として、基本額となる出動手当額を「火災出動」欄に入力し、特別な場合の出動手当額を「その他」の欄に記入してください。また、その場合が分かるよう説明を付けてください。
- ・支給単位を「その他」とした場合、その他の項目の出動手当額がある場合にも、その場合が分かるよう「説明」欄に説明を付けてください。

議会報告会 報告書

秦野市議会議長 阿蘇 佳一 様

(文教福祉) 常任委員会委員長 横山むらさき

開催日時	平成30年11月11日
開催場所	秦野市役所本庁舎4階議会第1会議室
出席委員	<p style="text-align: center;">委員氏名(役割)</p> 1、横山むらさき(委員長あいさつ) 2、大野祐司(司会) 3、川口薫(アンケート質疑) 4、横溝泰世(回答援護) 5、風間正子(受付) 6、古木勝久(決算報告) 7、佐藤文昭(書記) 8、村上茂(書記)
参加者数	民生委員・児童委員11名
主な流れ及び時間配分	1、開会(司会大野祐司) 2、議長あいさつ(阿蘇佳一) 3、文教福祉常任委員長あいさつ・趣旨説明(横山むらさき) 4、文教福祉常任委員会委員紹介、席順に自己紹介した。 5、参加者紹介(民生委員・児童委員11名、自己紹介した。) 6、議会報告 7、意見交換
内容 (話し合われた課題や意見、所感等)	1、議会報告は、別紙の通り 2、意見交換は、別紙の通り

(2)平成29年度決算の審査概要について(古木)

先の9月定例会では、平成29年度一般会計のうち福祉部、子ども健康部、また国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計、介護保険事業特別会計の3つの特別会計決算について、そして教育委員会が所管する事務事業、予算決算常任委員会文教福祉分科会において、それぞれ審査が行われ、いずれも賛成多数、本会議で採決されました。

1、民生費に関する福祉部と子ども健康部が所管する決算の概要について、5ページをご覧ください。

予算現額236億5438万円、支出済額219億1644万113円、翌年度繰越額を除いた執行率は94.8%、歳出総額494億6859万1701円に占める構成率は44.3%です。

2、昨年(29年)度は、民生委員制度創設100周年記念事業が行われました。市内4駅で啓発用グッズを配布し、活動のPR、また各地で民児協の活動パネルを展示し、活動のPRがそれぞれ実施されました。

小児医療費助成事業助成事業費では、平成29年4月から未小学児の所得制限が撤廃され、かつ小学生以上の所得制限が緩和されました。なお、現在は所得制限があるものの小学6年生まで、通院の自己負担はありません。

高齢福祉事務費では、平成30年度から平成32年までを計画期間とする第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画が策定されました。また、健康はだの21第4期計画が策定されました。

3、民生費に関する主な決算審査の概要について

平成29年度歳入歳出決算の認定についてのうち文教福祉分科会所管で、福祉部と子ども健康部に関する審査の経過と結果の概要を申しあげます。審査対象は福祉部が74事業、子ども健康部が89事業です。

4、福祉部及び子ども健康部に関する事項では、まず、保健福祉センター施設維持管理について「平成29年10月に保健福祉センターの会議室が有料化されたことに伴い、利用形態に様々な変化があったとのことだが、これは利用の適正化が図られたと考えるべきか。」との質疑に対し「有料化されたことで各団体が利用できる機会が増えたと認識している。」との答弁がありました。

これに対し、「有料化したことで利用の適正化が図られているのであれば、施設管理者と利用者間に使用料の最適な水準があるはずであり、その水準がどこであるのか所管課において研究すべきである。」との意見がありました。

次に、重度障害者医療費助成事業について

「重度障がい者の経済的負担を軽減するため、医療費の保険給付内における自己負担分を助成しているとのことだが、対象者の区分や実績はどのようなか。」との質疑に対し、「手帳取得時に65歳未満であり、身体障害者手帳1級及び2級や、知能指数35以下などに該当する人を助成対象としている。平成29年度の実績としては2367人に助成を行っており、身体障害者手帳1級及び2級に該当するひとが、全体の約72.7%をしめている」との答弁がありました。

また、「助成対象者の区分別に支出した助成額の内訳などは集計していないとのことだが、所管課が予算を管理する上では必要なデータであると考えため、今後は詳細な把握に努めてほしい。」との要望がありました。

次に、こども相談事業について、

平成29年度の児童虐待などに関する相談件数は、7990件であり、25年度と比較すると1210件増えている。現在は常勤職員4人を含む13人で対応しているが、相談件数が増加傾向にある、などの質疑がありました。

(2)「平成29年度秦野市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について」申し上げます。

まず、買い物支援に関する取り組みについて、平成29年度に西地区で実施した「買い物に関するアンケート調査」の結果を踏まえて、公用車を利用した買い物の送迎について試行的に取り組んでいるが、買い物支援に関する取り組みは、全庁的な検討も必要なことから、庁内連携をしっかりと図ってほしい、との要望がありました。

4、教育費に関する教育部と市民部が所管する事務事業の概要について

教育総務費をはじめ小学校費、中学校費、幼稚園費、また、市民部が所管する社会教育費(生涯学習振興課、図書館、桜土手古墳展示館、宮永岳彦記念美術館、公民館11館)も含めて、その決算の概要を説明させていただきます。

予算現額33億6672万2千円、支出済額31億7872万7282円、翌年度繰越額を除いた執行率は94.8%、支出総額494億6859万1701円に占める構成比は、6.4%。

主な事業として全小学校へのタブレット端末導入費等が約6千万円、繰越事業として、本町中、東中の外壁塗装剥離防止対策事業費として約5700万円、小・中学校のトイレ快適化第2次整備事業の開始では約5800万円、公民館改善工事費としては、トイレや空調設備の改修費として約4300万円などがあげられています。

5、教育費に関する主な決算審査の概要について

それでは、「平成29年度一般会計歳入歳出決算の認定について」のうち文教福祉分科会所管部分に関する教育費に関する審査の経過と結果の概要を申し上げます。審査対象は教育部が95事業です。

(1)教育費

まず、かながわ学びづくり推進事業について「学力向上を目的とした授業改善の取り組みを推進するため、平成29年度に本町小学校を重点拠点校とし、公開授業研究会や研究先進校への視察などを行っているが、成果はどのようなか。」との質疑に対し、「本町小学校における授業改善の取り組みを公開授業研究会などにより、市全体に拡充できたことや、分る授業・楽しい授業の実現のため、若い教職員が研究活動に携わったことが大きな成果と捉えている。」との答弁がありました。

これに対し、「児童・生徒の個性を引き出せる環境を整えることが学習意欲の向上につながると考えるため、テストの点数を上げることにだけ意識するのではなく、学級の中における雰囲気づくりの視察を行っているが、成果はどのようなか。」との質疑に対し「本町小学校における授業改善の取り組みを公開授業研究会などにより、市全体に拡充できたことや、分る授業の実現のため、若い教職員が研究活動に携わったことが大きな成果と捉えている。」との答弁がありました。

これに対し、「児童・生徒の個性を引き出せる環境を整えることが学習意欲の向上につながると考えるため、テストの点数を上げることだけ意識するのではなく、学級の中における雰囲気づくりを大切にしてほしい。」との要望がありました。

次に小学校給食調理費について、「栄養士や調理師が献立や調理方法を工夫するなど、日頃からおいしい給食の提供に努めているとのことであるが、地元食材の活用状況はどのようなか。」との質疑に対し、「農協や地域の生産組合の協力により、地元食材の活用割合を高める努力をしている。平成29年度は地元食材を約28.7%活用した。」との答弁がありました。これに対し、「地元食材の活用は地産地消の観点から重要であるため、さらなる活用について検討してほしい。」との要望がありました。

次に、小学校ICT環境整備について

「小学校にタブレット端末を512台、テレビモニターを260台導入し、ICT環境の整備を図ったとのことであるが、成果はどのようなか。」との質疑に対し、「朝のドリル学習や各教科でICTを活用することにより、学習意欲の向上につながったと考えている。また、プレゼンテーションソフトを活用したことで、新しい学習形態を確立することができた。」との答弁がありました。

これに対し、「ICT環境に児童が慣れてくるとSNSなどに関連した犯罪やいじめなども懸念されるため、モラル教育の徹底を図ってほしい。」との要望がありました。他には、「給付実績が低い小学校災害共済掛金の見直しについて」の質疑がありました。

(2) 市民部が所管する社会教育費について

審査対象は34事業です。

公民館の利用環境の向上について、「平成29年10月の公民館利用料の見直しに合わせて、各部屋の利用時間を1時間から30分単位に変更するなど、利用環境の向上に努めているが、利用料の見直しによる増収分については、トイレの様式化など公民館の環境整備に充当できるよう、検討してほしい。」との要望がありました。そのほか、「駅連絡所における図書館機能の拡充について」、「里千里山自然環境活用学習の取り組み実績について」などの質疑がありました。次に、法定受託事務について、決算額29億2725万4736円。

国及び県が、本来果たすべき役割を秦野市が受託している事務(福祉部・こども健康部)

1、生活保護費

29年度決算額 34億3105万0920円

国庫・27億7477万5964円

県費・1億1566万7494円

その他・4482万2672円

一般財源・4億9578万4790円

2、在宅障害者等福祉手当費

29年度決算額 1億9041万9610円

国庫・2559万690円

県費・4万1002円

一般財源・1億6478万7918円

3、基礎年金等経費

29年度決算額 1045万5281円

国庫・1045万5281円

4、予防接種事業費

29年度決算額 2億7321万5503円

県費・72万4305円

一般財源・2億7249万1198円

となっています。以上、文教福祉常任委員会に関する概要説明を終わります。

7 意見交換(川口委員)

(1)、県営秦野団地・公団下大槻団地について

①民生委員を支えてもらえるような高齢者支援の専門職を常駐させることはできないか。

答 高齢者支援センターがありますがお願いしてもカギがないため対応できない。自治会がどういう対応するのか。

②高層階に居住している高齢者が1階に引越しを希望した場合、費用助成できないか。

③高齢者などが階段の上り降りが大変なことから、エレベーターを設置できないか。

答 市営薬師原住宅は、4階5階は若い人、3階より下に高齢者ということで、空いた所からして行く。県営団地は県のほうに、URはURに相談してほしい。転居費用とか、希望があれば考慮するようになっている。

(2)自治会のないマンションがあるため、自治会の設立を促進してほしい。地区社協のサービスなどをより広く受けてもらうために、自治会加入を促進してほしい。

答 自治会に入っていないなくても交流はどうしているのか、私だけ入るといふ人もいる。広報、回覧板チラシなど、自治会に入らないことによって届かない。マンションには管理組合がある。管理組合の役員に相談したり、子どもを通したり、つてをたどって相談をかけて、有志自治会を作ってもらうなどできないか。

(3)空き家対策について

答 空き家対策担当が1人しかいない。緊急時には、くらし安全課1人、建設部1人である。市政懇談会で、来年度は深刻に受け止めて行く。樹木が生い繁っている30箇所のうち、何件かは地域で伐採している。

問 緊急性のある問題が解決されていない。民地に入って、具体的な対策をとるなど、実効性のある支援をしてほしい。

答 買った人、地主が管理する。雑草何ヶ月に1回やるのが当たり前ですが、管理ができていない空き家がある。

特定空き家対策として活用、貸してもいいが地主が手続など面倒くさくなる。そのまま置いておく。緊急のときは対応している。

空き家をサロンなど活用できないかという声があるが、現状では中々進まない。

(4)近くにスーパーがない高齢者や障害者などの買い物支援を行ってほしい。

(5)コミュニティバスなど高齢者の移動を支援するサービスを充実して

ほしい。

(4)(5)は同様の質問ですので回答が混同しているため回答は一つにしました。

答 新しいスーパーができることになった。

西連合自治会で、近隣のスーパーが閉店になって3ヶ月9月、10月、11月と週一回車とボランティア運転手4人で、公用車を使って介護事業者の、朝夕の送迎の昼間の空いている時間、協力できないか相談して始めました。

移動の話しがどんどん広がり、病院にもいきたいとなってきた。

自分のことは自分で考えて、コミタクを使えば日赤に行ける。

渋沢駅からコミタクは朝何本ある、地域の皆さんが乗らないと無くなってしまう。

ボランティアでの運用は運転手は自治会がやっている。

法人のもしもの時、保障はどうするのか。

老健、特養の車、昼は空いている。

市民活動保障というのがある。

民生委員はボランティア保険に入っている。事故があった場合にどこまで保障ができるのかという問題がある。

(6)民生委員の個人活動費を増額してほしい

問 高齢者の一人暮らし、見守り、サロン活動などで、携帯電話代、交通費などお金がかかり過ぎ、民生委員の改選があるが、このままでやっていけるのか心配です。

答 認知症などの対応で経費がかさむことはわかる。県と市に要望していきたい。サロン活動は、公民館や自治会館を使い、民生委員が中心になって連絡したり、他のところに研究しに行ったりで、以前に比べたら民生委員の活動は大変になっている。

高齢者とのコミュニケーション、サロンや子育てサロンなどもあり。

15人が限界で、毎月やりたいが、年に3回やっている。

民生委員と自治会役員でやっているが、活動の協力者の登録者が30人のところ、6人のところがあり、多いところは、民生委員1人にサポーター2人が付いている。サポーターを増やせれば、一人に二人のサポーターがほしい。全市的には各地区がむそういうところがあればいいね。

議会報告会 報告書

秦野市議会議長 阿蘇 佳一 様

環境都市常任委員会委員長 木村 眞澄

開催日時	平成30年11月11日
開催場所	議会第1会議室
出席委員	委員氏名(役割)
	木村眞澄、加藤剛、吉村慶一、野田毅、高橋照雄、小菅基司
参加者数	13名
主な流れ及び時間配分	開会 議長挨拶 委員長挨拶・趣旨説明 委員紹介・参加者紹介 議会報告・・・23分 （議会の仕組み・議会報告会の意義について、H29決算の概要） 意見交換・・・60分 7分
内容 （話し合われた課題や意見、所感等）	1 店舗の改装費用について 商：設備投資が必要になると、その費用を捻出できずに店を閉めてしまうケースが増えている。店舗運営を継続していく為の補助金制度を創設してほしい。 議：補助金の額、対象店舗数などの見込みはあるのか。 商：詳細はヒアリングを行っておらず不明である。 議：全国的にも同様の取り組みが始まっている。進めて行きたい。 2 地域活性化のための（ほっとワーク）開設について 商：鶴巻の他にも西地区、大根地区にはふれあい館が開設済みであり、本町地区にも開設されればまちの活性化に繋がるのではないかと。 議：開設済みの地区で実際に目に見える好影響が出ているのか。 商：商業に直結するデータはない。むしろ野菜などの物販が行われ

	<p>ており、商業者とバッティングする部分さえある。しかし、「人が集まる」効果はある。</p> <p>商：高齢化が進む中で、買い物難民に対する施策が必要。商店だからこそ細かい支援が出来る。検討を願う。</p> <p>3 商店街ボランティア計画（社会福祉協議会）</p> <p>商：イベント開催時等の人出が足りない。ボランティア参加の制度確立を望む。</p> <p>議：ボランティアの対象者年齢は。</p> <p>商：定年退職した方などを想定している。まずはテント設営などの作業だけでもお願いしたい。</p> <p>議：ボランティアには有償と無償があるが。</p> <p>商：基本的には無償。</p> <p>議：無償ボランティアへの対価は「達成感」である。達成感を得てもらう為には企画段階から巻き込む必要がある。</p> <p>4 曾屋配水池の観光整備について</p> <p>商：観光振興こそ商店街の活性化に繋がる。PRが不足している。</p> <p>議：イベント等の開催の必要性を感じている。駐車場などの周辺環境の整備を要する。</p> <p>商：曾屋神社や周辺商店で対応が可能。看板一つ出ない事が問題。</p>
--	--

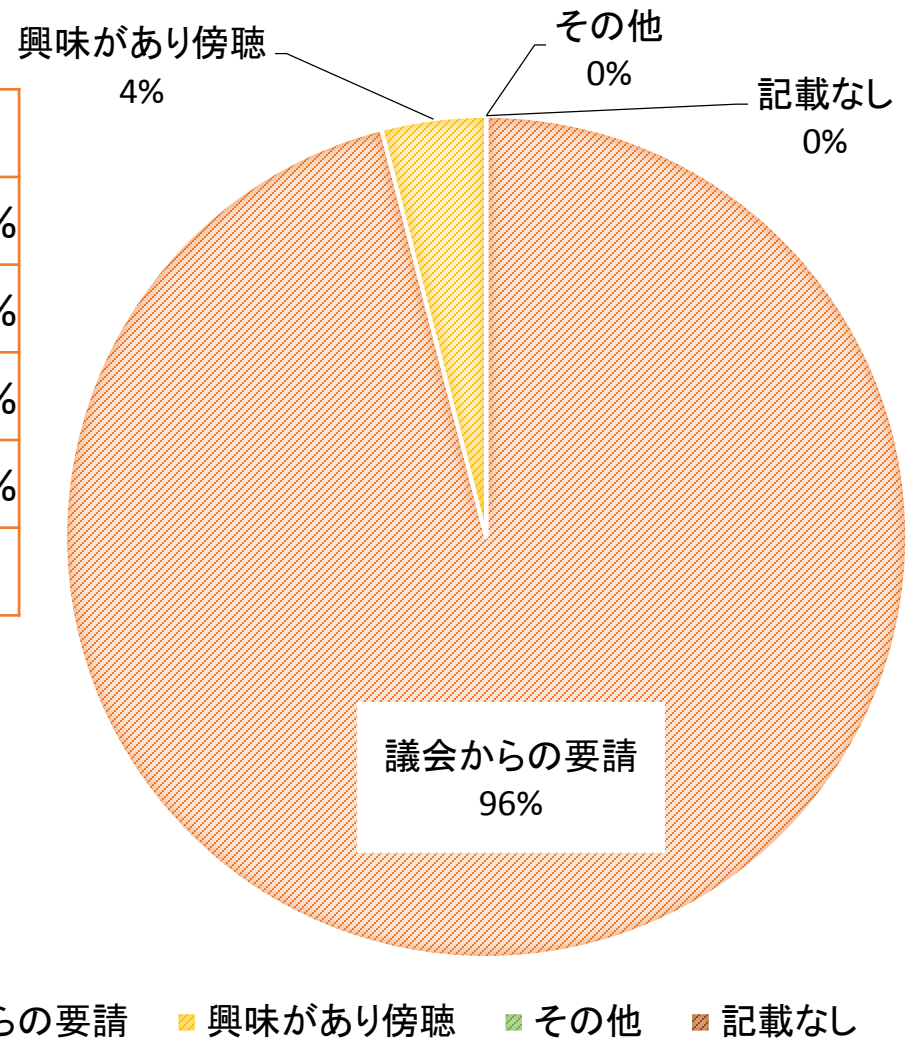
第6回議会報告会

～アンケート結果～

回答者：25名

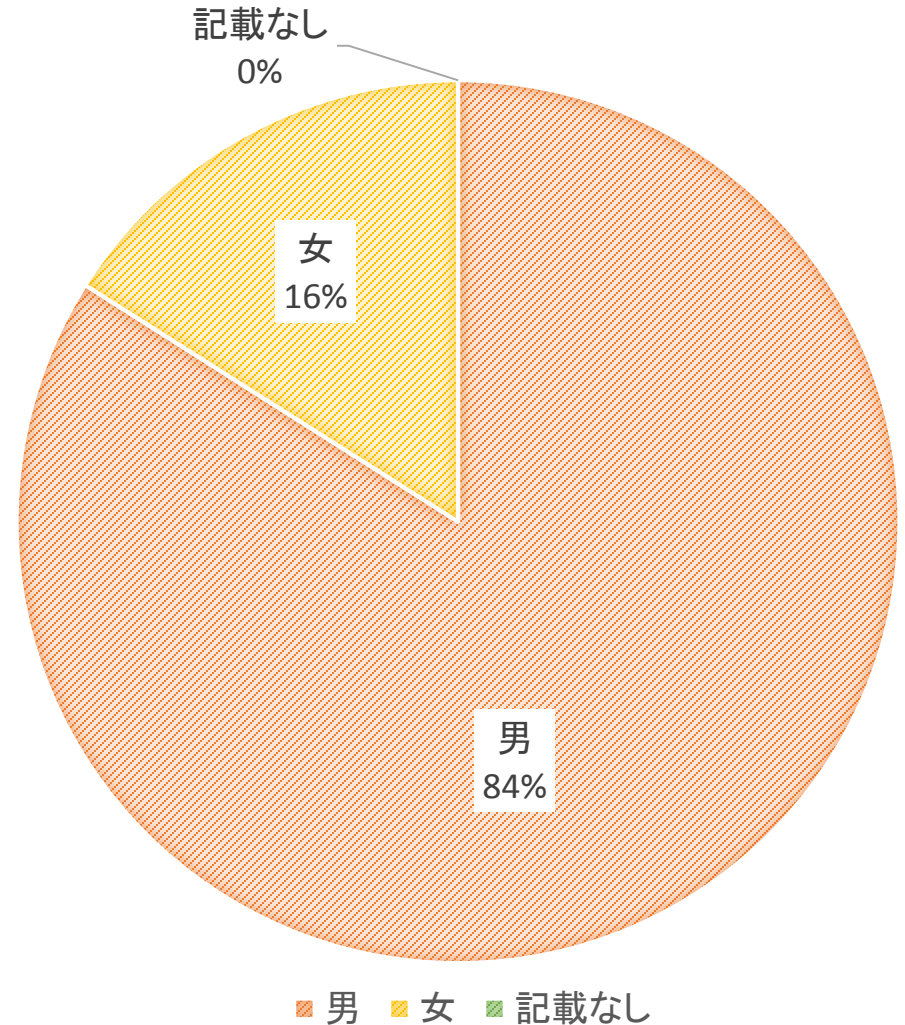
1. 今回の参加は？

No	項目	件数	占有率
1	議会からの要請	24	96.0%
2	興味があり傍聴	1	4.0%
3	その他	0	0.0%
4	記載なし	0	0.0%
	計	25	



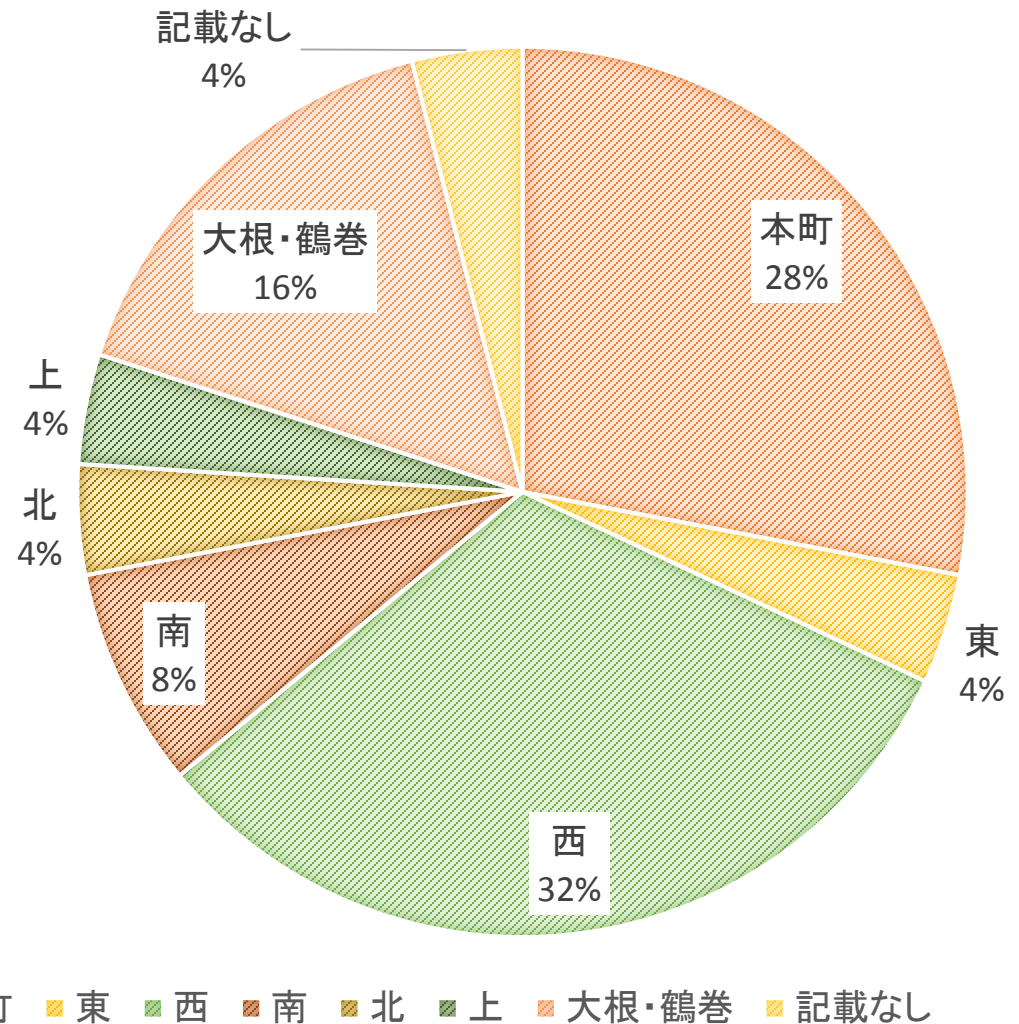
2. あなたの性別は？

No	項目	件数	占有率
1	男	21	84.0%
2	女	4	16.0%
3	記載なし	0	0.0%
	計	25	



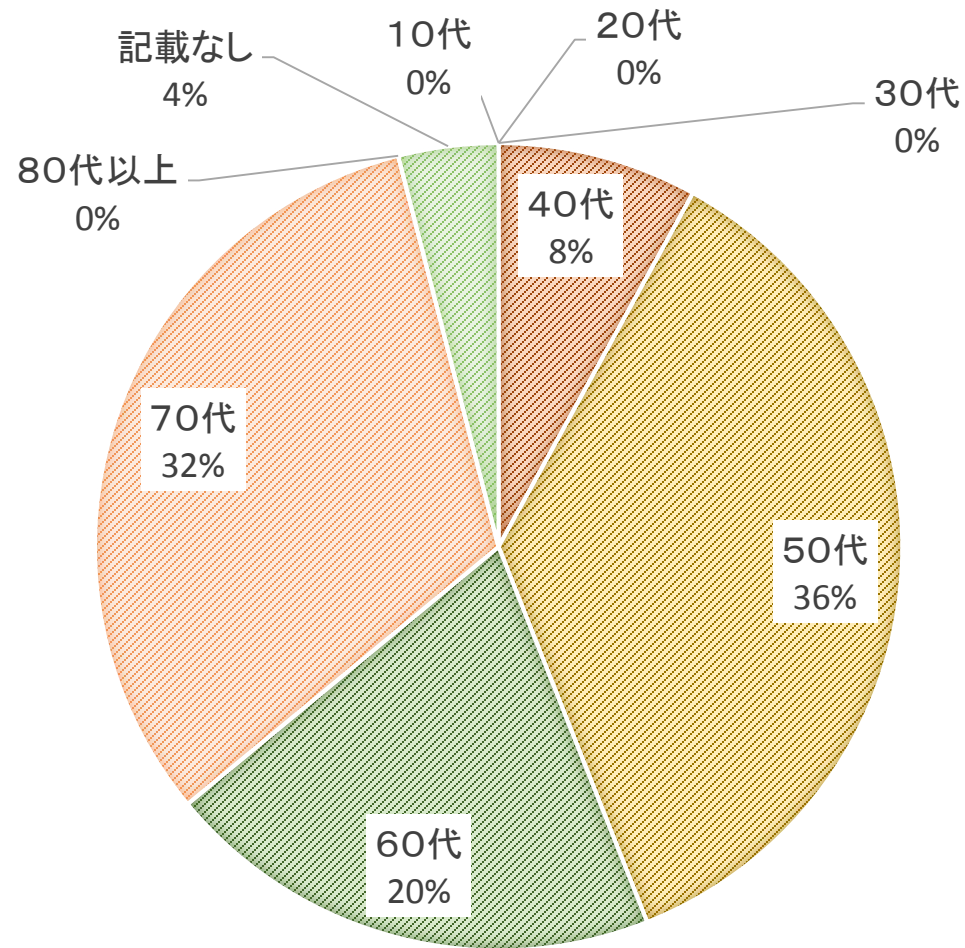
3. お住まいの地区は？

No	地区名	件数	占有率
1	本町	7	28.0%
2	東	1	4.0%
3	西	8	32.0%
4	南	2	8.0%
5	北	1	4.0%
6	上	1	4.0%
7	大根・鶴巻	4	16.0%
8	記載なし	1	4.0%
	計	25	



4. あなたの年齢は？

No	年代	件数	占有率
1	10代	0	0.0%
2	20代	0	0.0%
3	30代	0	0.0%
4	40代	2	8.0%
5	50代	9	36.0%
6	60代	5	20.0%
7	70代	8	32.0%
8	80代以上	0	0.0%
9	記載なし	1	4.0%
	計	25	



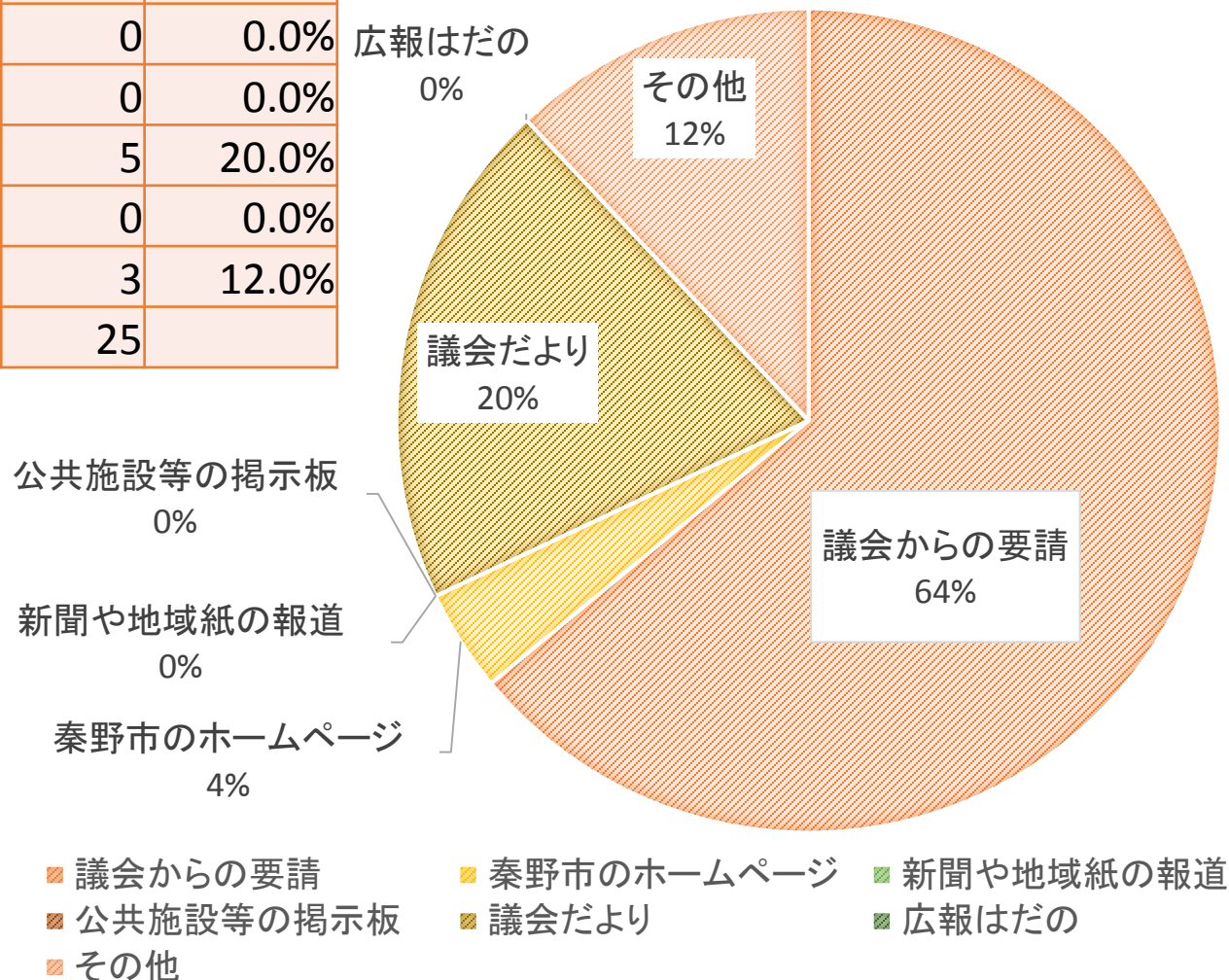
10代
40代

20代
50代

30代
60代

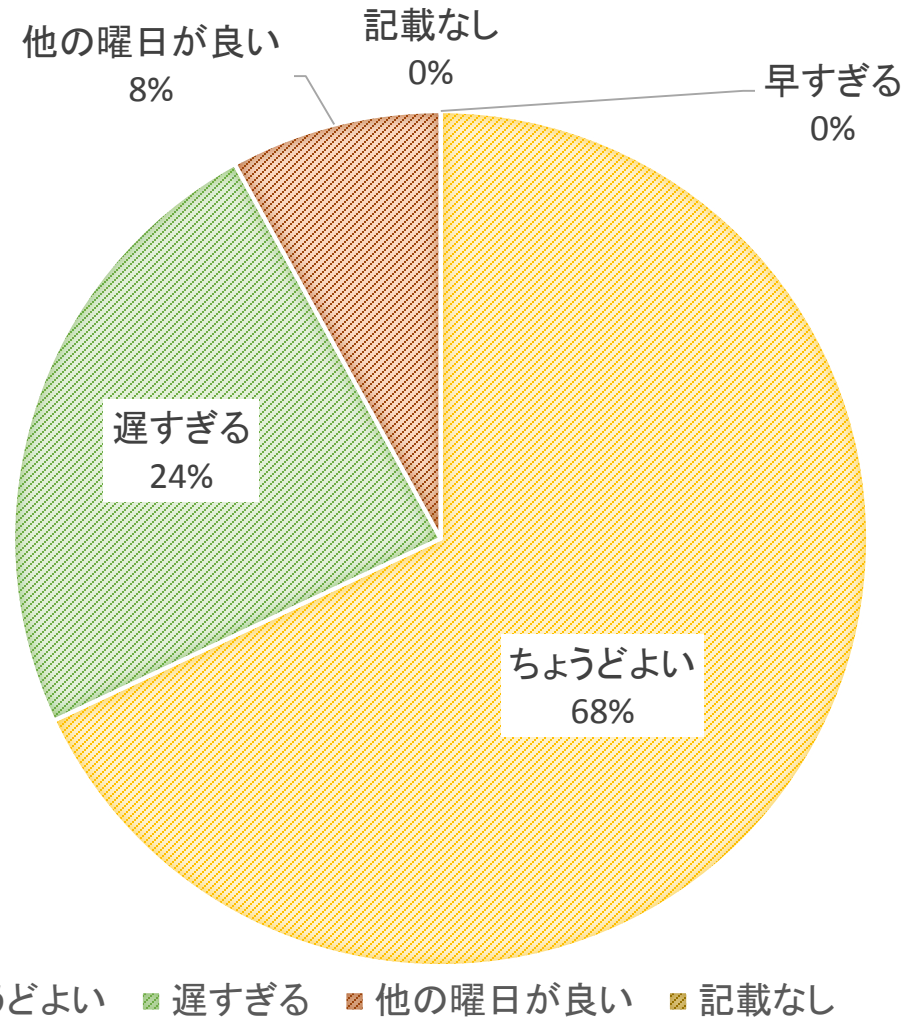
5. 今回の「議会報告会」を何で知りましたか？

No	項目	件数	占有率
1	議会からの要請	16	64.0%
2	秦野市のホームページ	1	4.0%
3	新聞や地域紙の報道	0	0.0%
4	公共施設等の掲示板	0	0.0%
5	議会だより	5	20.0%
6	広報はだの	0	0.0%
7	その他	3	12.0%
	計	25	



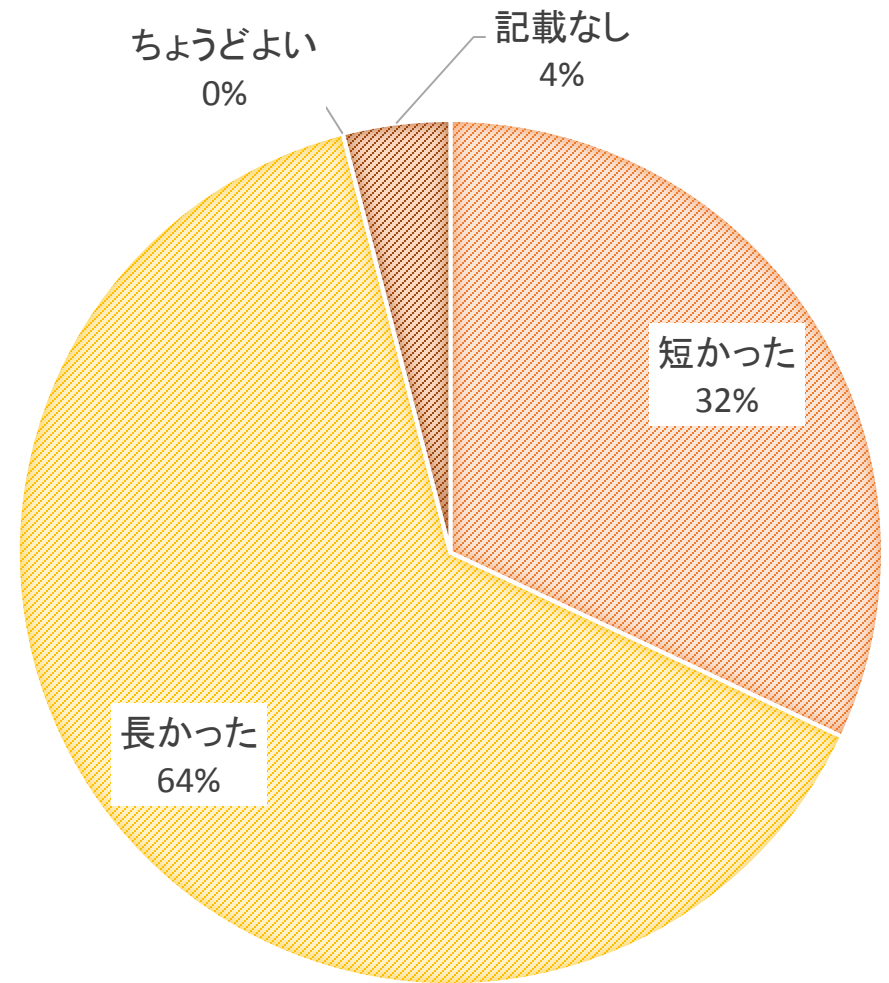
6. 開催時刻・曜日はいかがでしたか？

No	項目	件数	占有率
1	早すぎる	0	0.0%
2	ちょうどよい	17	68.0%
3	遅すぎる	6	24.0%
4	他の曜日が良い	2	8.0%
5	記載なし	0	0.0%
	計	25	



7. 開催時間はいかがでしたか？

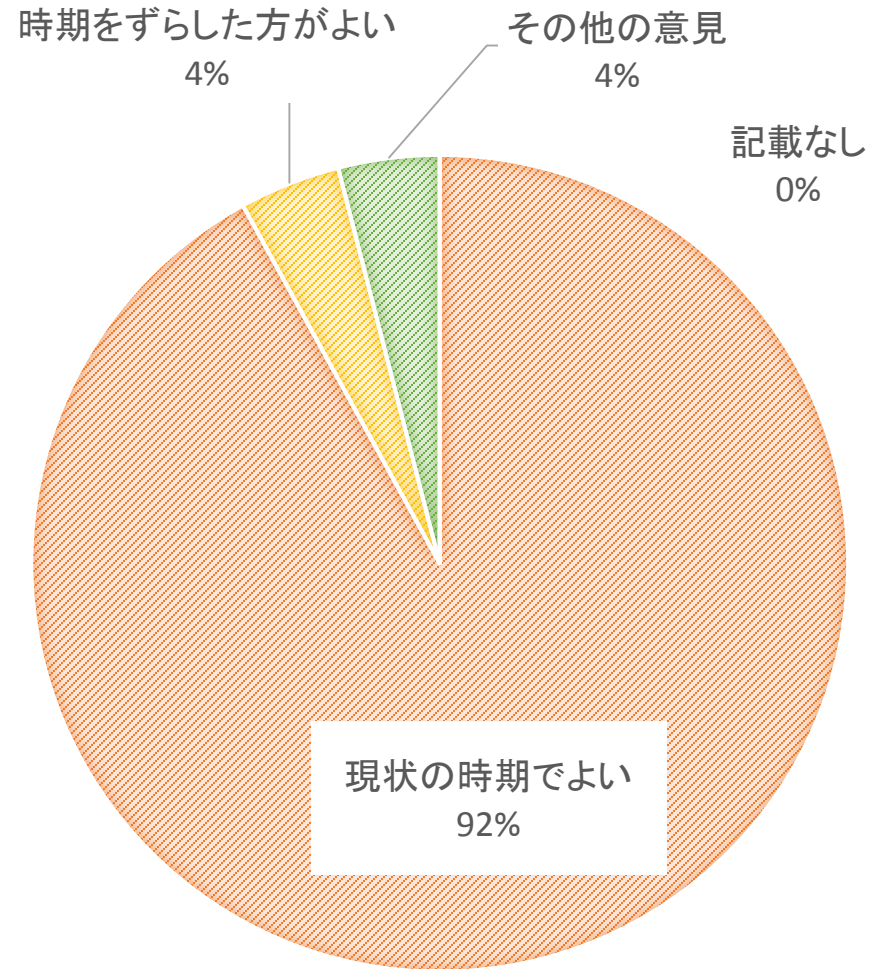
No	項目	件数	占有率
1	短かった	8	32.0%
2	長かった	16	64.0%
3	ちょうどよい	0	0.0%
4	記載なし	1	4.0%
	計	25	



■ 短かった ■ 長かった ■ ちょうどよい ■ 記載なし

8. 開催時期はいかがでしたか？

No	項目	件数	占有率
1	現状の時期でよい	23	92.0%
2	時期をずらした方がよい	1	4.0%
3	その他の意見	1	4.0%
4	記載なし	0	0.0%
	計	25	



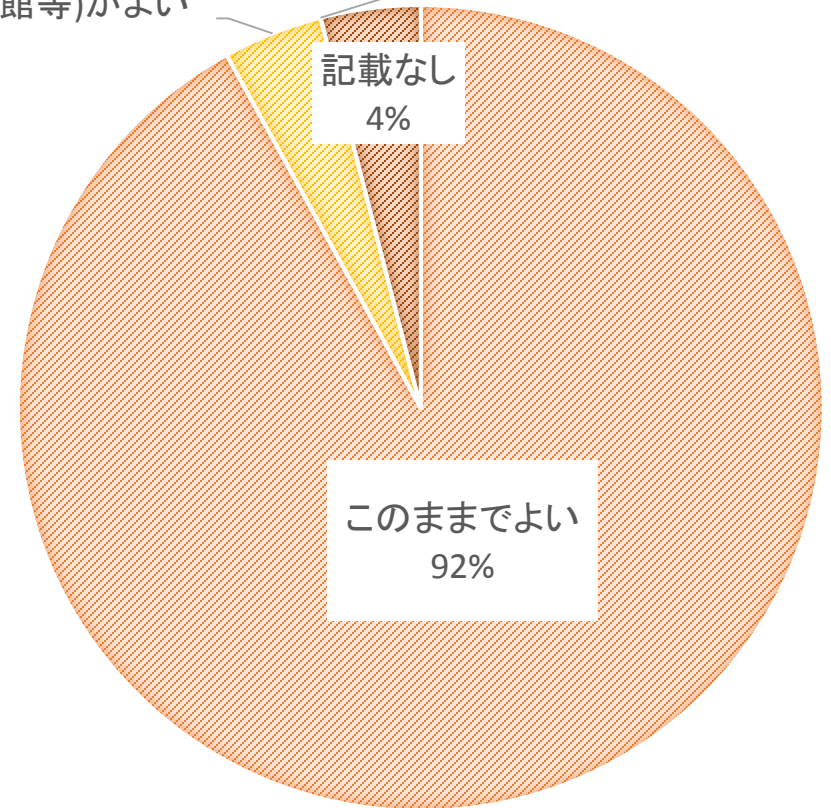
- 現状の時期でよい
- 時期をずらした方がよい
- その他の意見
- 記載なし

9. 開催場所はいかがでしたか？

地区ごと(公民館等)がよい
その他
0%

記載なし
4%

このままでよい
92%

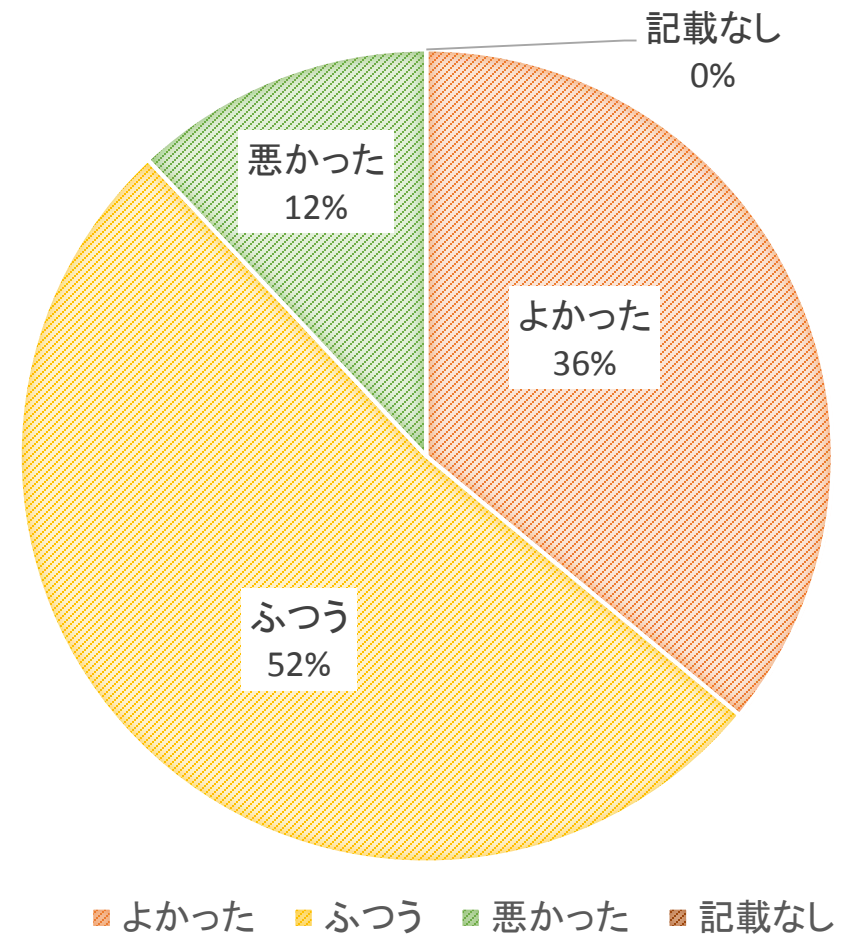


No	項目	件数	占有率
1	このままでよい	23	92.0%
2	地区ごと(公民館等)がよい	1	4.0%
3	その他	0	0.0%
4	記載なし	1	4.0%
	計	25	

■ このままでよい ■ 地区ごと(公民館等)がよい ■ その他 ■ 記載なし

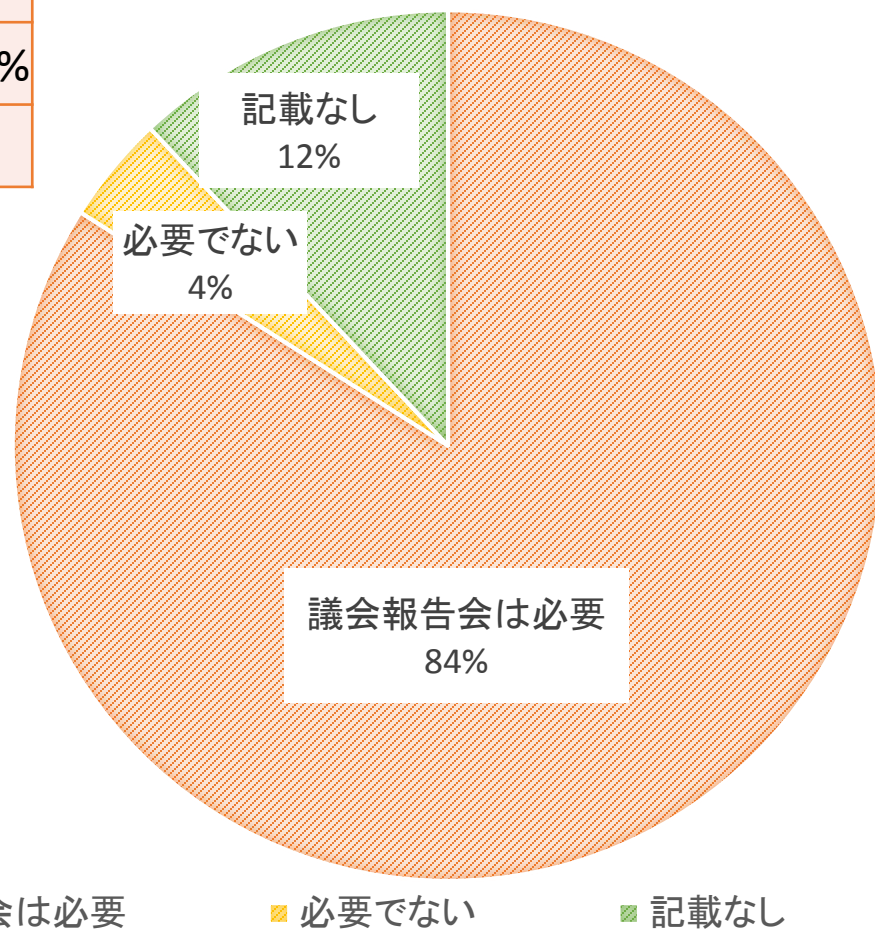
10. 今回の内容、説明はいかがでしたか？

No.	項目	件数	占有率
1	よかった	9	36.0%
2	ふつう	13	52.0%
3	悪かった	3	12.0%
4	記載なし	0	0.0%
	計	25	



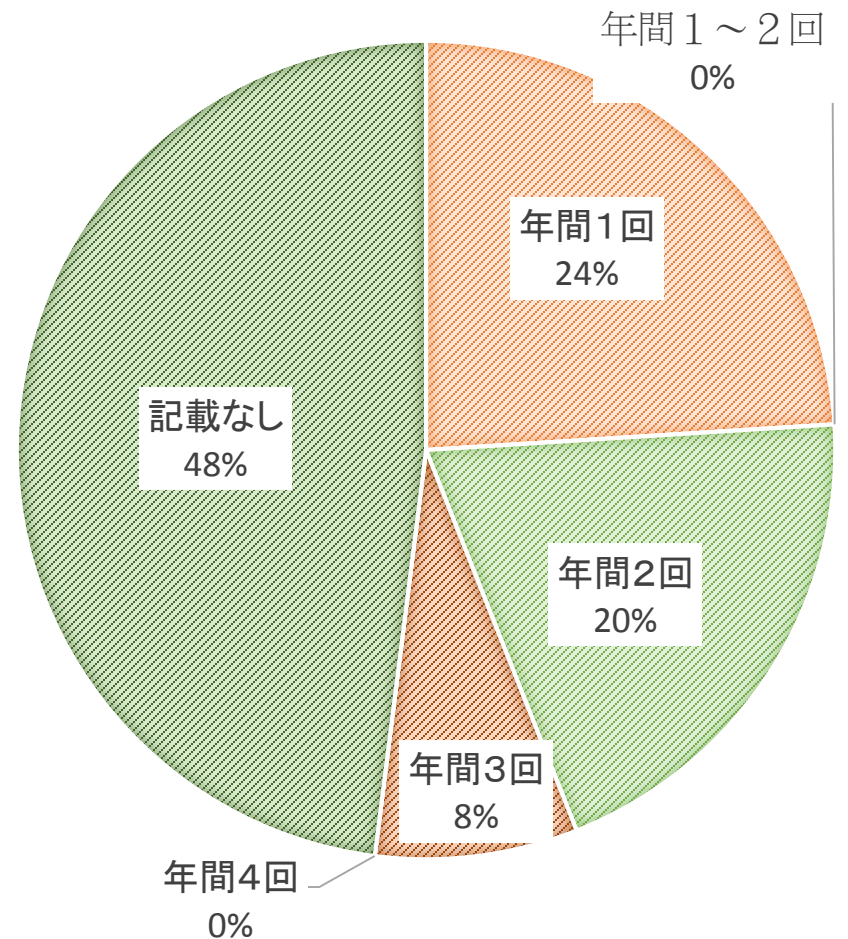
11. 今後も開催する必要があると思いますか？

No	項目	件数	占有率
1	議会報告会は必要	21	84.0%
2	必要でない	1	4.0%
3	記載なし	3	12.0%
	計	25	



12. 11で「必要」と回答した方の回数

No.	項目	件数	占有率
1	年間1回	6	24.0%
2	年間1～2回	0	0.0%
3	年間2回	5	20.0%
4	年間3回	2	8.0%
5	年間4回	0	0.0%
6	記載なし	12	48.0%
	計	25	



■ 年間1回 ■ 年間1～2回 ■ 年間2回 ■ 年間3回 ■ 年間4回 ■ 記載なし

13. 自由意見

NO.	自由意見
1	<p>こういう場は初めてであった。説明時の資料がどこを読んでいるのか分からなく、もう少し資料との対応をはっきり言ってほしかった。</p> <p>質疑の時間を取っていただき、こちらの説明を聞いてもらえたのは良かったと思う。</p> <p>速効は難しいが、委員の方々に理解してもらえるのが良かった。</p>
2	<p>資料がまとまっていない。</p> <p>テーマにもあったが、自治会の加入率アップは防災のためにも重要。市としてぜひ取り組んでほしい。</p>
3	<p>自由発言の時間が必要</p>
4	<p>議員の先生方の中でも、よく勉強されている方がいっしょり大変心強く参考になることがあった。</p> <p>何回かこのような機会を作ってほしい。</p>
5	<p>毎回この報告会で出た意見がどうなったか報告がほしい。</p>